分割統治法 ClosestPairを例に

計算機アルゴリズム特論:2017年度

只木進一

分割統治法(Divide and Conquer)と再帰

- ■小さい問題に分割
- →分割された、非常に小さい問題を解決する。
- ■その後、小さな問題の統合を繰り返し、 全体の問題を解く
- ■再帰的/非再帰的手法

最近接点:問題設定

- ■二次元空間内の点の集合 $P = \{p_k | 0 \le k < n\}$
- ▶最も距離の近い点の組を求める
- ■単純に点の組の距離を調べたのでは、 n×(n-1)/2個の組について、調べる 必要がある
- → 分割統治に基づくアルゴリズムを検討

基本的方針

- **→**x座標、y座標でソート
 - ■「近い」領域だけ調べる
 - ■領域に分割
- ■小さな領域→力ずくで調べる
- ■領域の統合
 - ■既知の組と境界の組を比較

- java.awt.geom.Point2D.Double
 - ■2次元の点の座標(double)を保持
 - → 距離を測るメソッドdistance()

- PointPair
 - ▶二つの点とその間の距離を保持

Brute Force カずく

```
public static PointPair findClosestBF(List<Point2D.Double> list) {
    int n = list.size();
    PointPair pp = new PointPair(list.get(0), list.get(1));
    double min = pp.distance;
    for (int i = 0; i < n - 1; i++) {
       Point2D.Double p = list.get(i);
       for (int j = i + 1; j < n; j++) {
         Point2D.Double q = list.get(j);
         if (p.distance(q) < min) {</pre>
            min = p.distance(q);
            pp = new PointPair(p, q); }
                               全ての点の組を調べる
  return pp;
```

最近接点:準備

- ■全ての頂点をx座標の順で並べたリストX₀
- ■全ての頂点をy座標の順で並べたリストY₀
- → それぞれ、nlog2n回の比較で生成できる

点のリストP



x座標でソートしたリストX₀

y座標でソートしたリストY₀

ソートは一度しか行わない

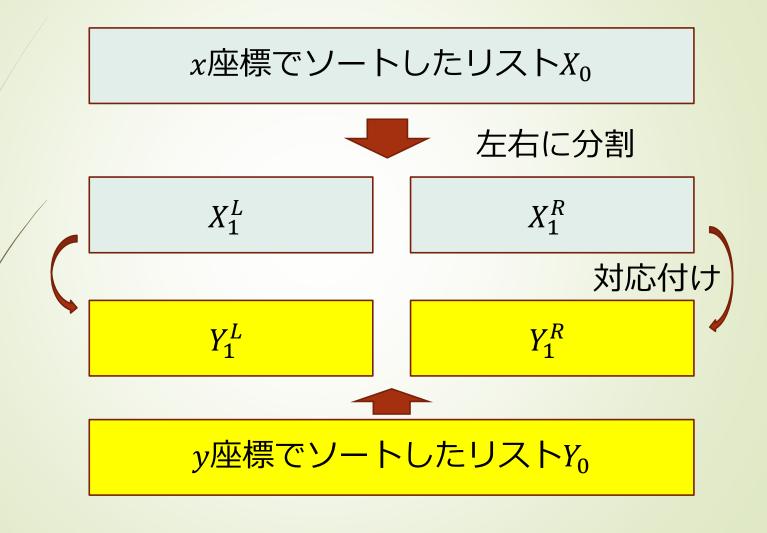
最近接点:左右分割

- \blacksquare 組 (X_i, Y_i) に対して、 X_i を左右 (X_{i+1}^L, X_{i+1}^R) に分割
- ■対応して Y_i を割り当て、 (Y_{i+1}^L, Y_{i+1}^R) とする。

最近接点:上下分割

- \rightarrow 組 (X_i, Y_i) に対して、 Y_i を上下 (Y_{i+1}^D, Y_{i+1}^U) に分割
- ■対応して X_i を割り当て、 (X_{i+1}^D, X_{i+1}^U) とする。

▶注:いずれのリストもソートされている



$$P = \{(2,5), (1,6), (9,5), (3,1), (2,2), (8,7), (4,8), (7,1)\}$$



ソート

$$X_0 = \{(1,6), (2,5), (2,2), (3,1), (4,8), (7,1), (8,7), (9,5)\}$$

$$Y_0 = \{(3,1), (7,1), (2,2), (2,5), (9,5), (1,6), (8,7), (4,8)\}$$



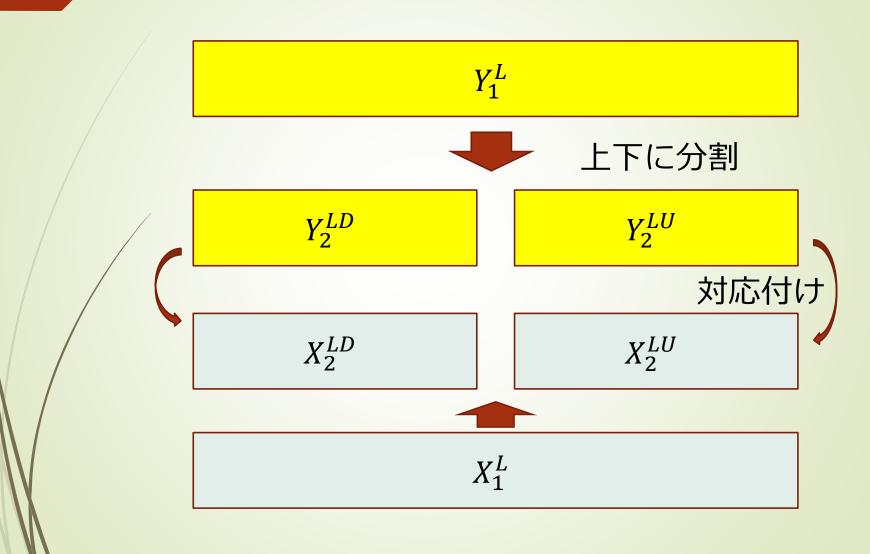
x方向への分割

$$X_1^L = \{(1,6), (2,5), (2,2), (3,1)\}$$

$$Y_1^L = \{(3,1), (2,2), (2,5), (1,6)\}$$

$$X_1^R = \{(4,8), (7,1), (8,7), (9,5)\}$$

$$Y_1^R = \{(7,1), (9,5), (8,7), (4,8)\}$$



$$X_1^L = \{(1,6), (2,5), (2,2), (3,1)\}$$

$$X_1^R = \{(4,8), (7,1), (8,7), (9,5)\}$$

$$Y_1^L = \{(3,1), (2,2), (2,5), (1,6)\}$$

$$Y_1^R = \{(7,1), (9,5), (8,7), (4,8)\}$$



y方向への分割



$$X_{2}^{LD} = \{(2,2),(3,1)\}$$

$$Y_{2}^{RD} = \{(3,1),(2,2)\}$$

$$Y_{2}^{RD} = \{(7,1),(9,5)\}$$

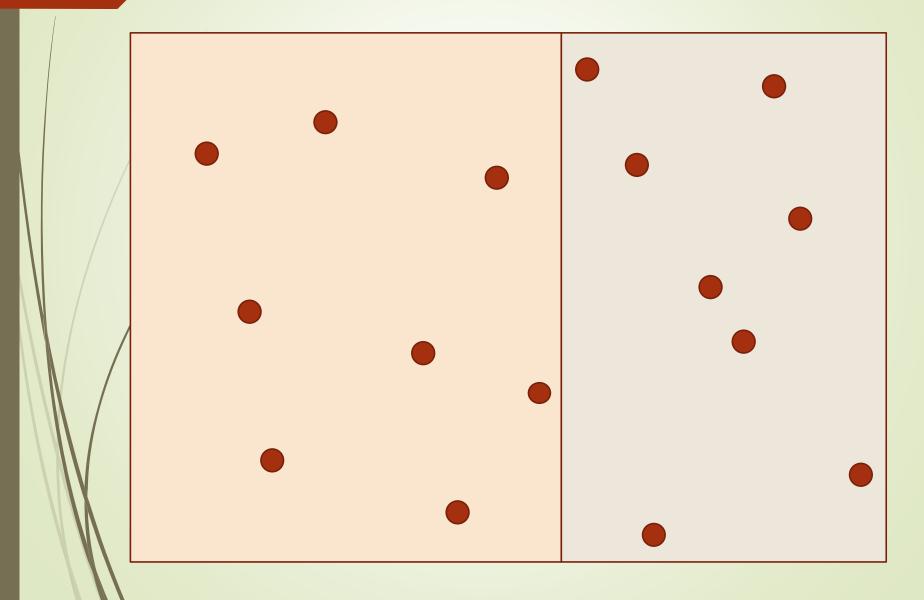
$$Y_{2}^{RD} = \{(7,1),(9,5)\}$$

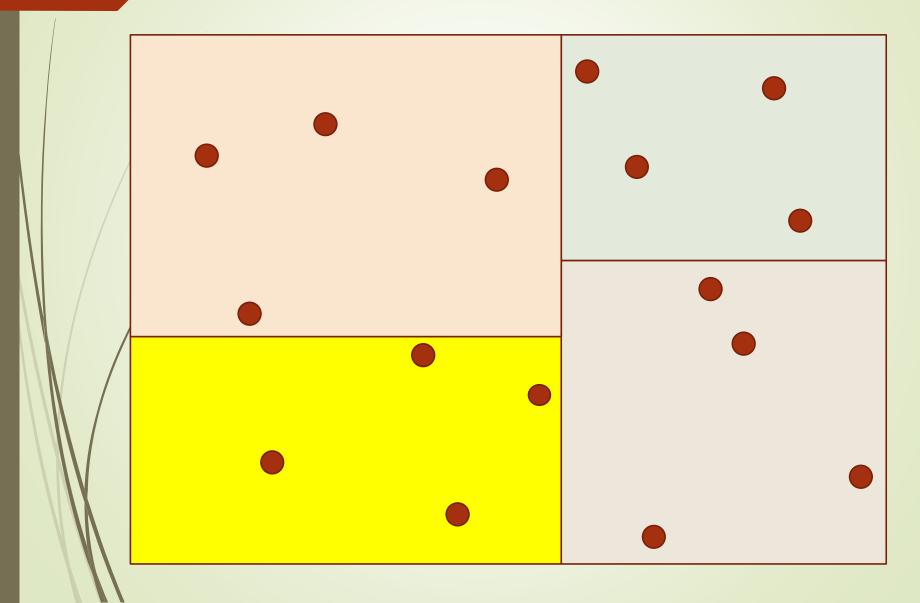
$$X_{2}^{RU} = \{(1,6),(2,5)\}$$

$$Y_{2}^{RU} = \{(4,8),(8,7)\}$$

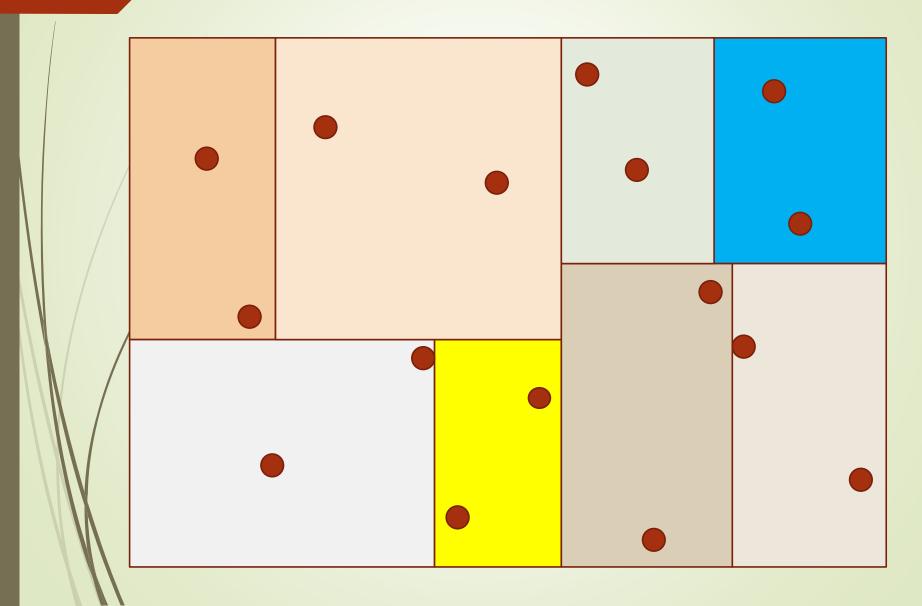
$$Y_{2}^{RU} = \{(2,5),(1,6)\}$$

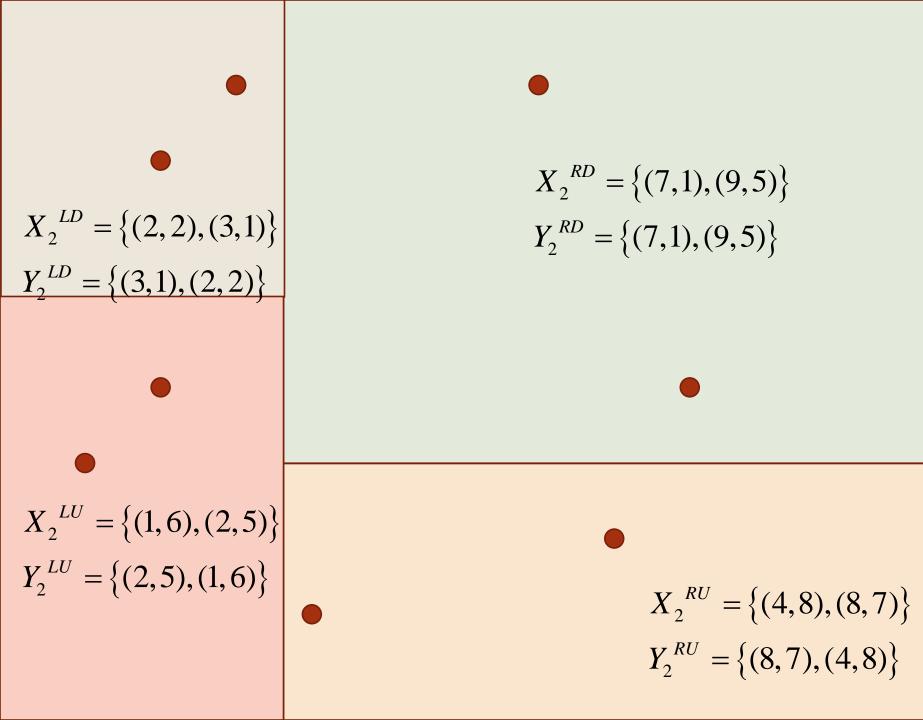
$$Y_{2}^{RU} = \{(8,7),(4,8)\}$$





領域内の点が3以下になるまで分割

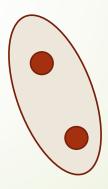




x-方向とy-方向の分割は交互であり、かつ対称的

- → x-方向に分割し、 y-方向のリストを対応付け
- **→** y-方向に分割し、 x-方向のリストを 対応付け
- ▶違いは、点のどちらの座標を見るか

- ■含まれている点の数が3以下になった ら、最短距離の点の組を返す。
 - ▶比較は3回以下

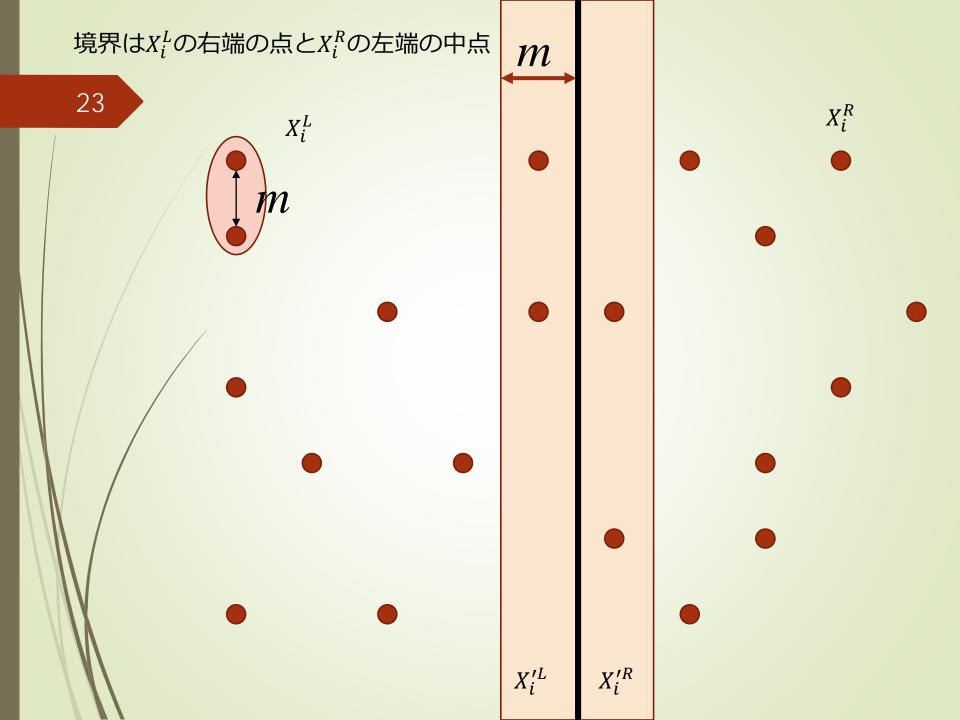


```
findSub(l_x, l_y, d){//ある方向のリスト、直交方向のリスト、方向 if (|l_x| \le 3) 力づくで最近接点を探す l_xを分割\rightarrow l_l^x, l_r^x l_yを対応して分割\rightarrow l_l^y, l_r^y p_l =findSub(l_l^y, l_l^x, d+1) p_r =findSub(l_r^y, l_r^x, d+1) p = min(p_l, p_r) 境界で最近接点を探す }
```

例えば、d%2 = 0の場合は水平方向、d%2 = 1の場合は鉛直方向とする

最近接点:統合

- ■二つに分割した空間内のそれぞれの最 近節点の組pとqを得る。
- **▶**pがqより、距離が短いとし、その距離をmとする。
- ■境界から距離m以内の点について、最 近接点を求める



左右の場合の統合

- 左領域の右端の点p^L
- ■右領域の左端の点p^R
- それぞれのx座標の中点を境界とする

- $X'^L:X^L$ のうち、 x_c からの距離がm以下の点の集合
- $X'^R: X^R$ のうち、 x_c からの距離が m以下の点の集合

■左右分割

- $\Rightarrow \forall (a,b), a \in X_i^{\prime L}, b \in X_i^{\prime R}$ について距離を計 測
- ▶上下分割
 - $\forall (a,b), a \in Y_i'^T, b \in Y_i'^D$ について距離を計

境界部分の点のリスト生成 x方向分割の場合

```
X^R:右側リスト X^L:左側リスト r = X^Rの先頭要素 l = X^Lの先頭要素 c = (r.x + l.x)/2 if (|r - l| < m) { ln = \{p \in X^L | |p.x - c.x| \le m\} rn = \{p \in X^R | |p.x - c.x| \le m\} }
```

```
PointPair findMin(左リストl, 右リストr, 既知の組p){
   d_{\min}=pの距離
   p<sub>new</sub>=p;//点の組
   l'//境界からd_{\min}以内の左の点リスト
   r'//境界からd_{\min}以内の左の点リスト
   forall(a \in l'){
      forall(b \in r'){
        if (distance(a, b)<d_{\min}){
          d_{\min}=distance(a, b);
         p_{\text{new}} = (a, b);
     return p_{\text{new}};
```

